

《目指す学校像》

「グラデュエーション・ポリシー」が備わった人物の育成するため、「カリキュラム・ポリシー」に基づき教育課程を編成・実施し、「アドミッション・ポリシー」に適った生徒の入学を期待する。

【スクール・ポリシー】

「自主自律」・「文武両道」の実現を教育目標とし、外部と連携したキャリア教育、地域に根差した教育活動を通じて、思考力、基礎学力、実践力、人間力の4つの力を育み、社会を生き抜く強い「個」を育成する。

1 学習指導

【中期的な目標】・生徒の学力向上を図り、GMARCHや日東駒専レベルの大学等、生徒の希望する大学に合格できる学力を身に付けさせる。

- ・新しい社会の変化に対応できる新しい学びを推進するため、策定した本校スクール・ポリシーを踏まえた教科指導を実践する。

【今年度の目標】・授業で「日東駒専」合格を目標におき、生徒の自学自習を定着させる取組みを工夫する。

- ・東京都教育ビジョン（第4次）及び未来の東京戦略等に基づくデジタル技術を活用した教育を推進する。

【今年度の方策】

- ① 授業確保を第一に、チャイム始業を徹底し、日々の授業を大切にする。
- ② 年間授業計画に基づき、計画的に授業を実施する。
- ③ 朝学習及び各種講習を、当該教科、分掌及び担任団との連携をもとに効果的・計画的に取り組む。
- ④ 定期考査は原則として共通問題にするとともに、記述式等の思考力育成を目指す問題を1問以上出題する。
- ⑤ 本校スクール・ポリシーを踏まえた各科目のルーブリックを作成し、教科の観点別評価を実施する（1年）。
- ⑥ 生徒の学力向上を図るため、教科主任会議を月1回以上実施し、授業改善の方向性を全教科で共有する。
- ⑦ 学期ごとの授業評価アンケートを原則としてスタディサプリを用いて実施し結果を分析するとともに、教員相互の授業参観を年6回以上実施し、教科会を通して授業改善を図る。
- ⑧ 日常や新型コロナウイルス感染症対策下における生徒の自学を支援するため、Microsoft Teamsやスタディサプリ等のデジタル技術を活用した生徒の学習サポートを実施する。
- ⑨ 英語4技能を伸ばすため、GTECの全員受検を実施するとともに英検受験を促進する。
- ⑩ 特別な支援や配慮を要する生徒連絡会を実施し、指導の工夫改善を図る

【数値目標とその結果】

- ① カリキュラムマネジメント委員会 隔月開催 教員研修 1回開催
- ② 教員相互の授業参観 300回 → 125回
- ③ 自学自習時間
 - ・1時間以上 1学年 50% → 38% 2学年 60% → 30%
 - ・2時間以上 3学年 60% → 56%
- ④ 学期中の講習 参加者数 60講座 600名 → 75講座 780名
- ⑤ 長期休業中講習 参加者数 80講座 1200名 → 52講座 675名
- ⑥ 自習室及び図書室の利用者数 年間 5000名 → 年間8420名
- ⑦ 大学入学共通テストの各教科目標平均点
 - 国語 現65点 → 75.4点 古 30点 → 12.1点
 - 地理 60点 → 42点 日本史 65点 → 49.3点

世界史 65点 → 58.1点 政経 70点 → 46.6点
 数学 60点 → 43.7点 物理 45点 → 44.4点
 化学 50点 → 40.5点 生物 60点 → 29.1点
 英語 リーディング50点 → 39.1点 リスニング50点 → 48.2点

- ⑧ 生徒の授業満足度 70% → 74.5%
- ⑨ 漢字検定 2級10名 準2級40名 → コロナのため実施できず
- ⑩ 英語検定 2級30名 → 31名 準2級50名 → 55名 ※他に1級1名
- ⑪ 4技能GTEC オフィシャルデーに全生徒で参加
- ⑫ 生徒状況連絡会 年1回 → 1回実施

【今年度の成果と課題】

- ① 新型コロナウイルス感染症対策のため、年間を通して始業時間を30分遅くして45分×6時間授業で実施し、9月1日からは8時30分に朝学習を開始、50分×6時間授業とした。年間を通して感染症対策を継続しながら教育活動を行った。
- ② チャイム始業についてはほぼ全教員が始業時間前に教室に入り指導を行っている。生徒のチャイム着席も定着し、落ち着いた環境で授業を受けている。
- ③ 定期考査は原則として共通問題にするとともに、記述式等の思考力育成を目指す問題を各教科ほぼ1問以上出題することができた。今後も継続していく。
- ④ 各教科で各科目のルーブリックを検討し、教科主任会を中心に、本校スクール・ポリシーに基づく教科の観点別評価を実施した。評価結果に対する生徒、保護者からの質問や意見等はなかった。
- ⑤ 教科主任会議は不定期で実施したが、授業改善の方向性を全教科で共有するまでには至らなかった。今後の課題である。
- ⑥ 生徒による授業評価については、各学期に1回実施することを基本として、実施時期や内容については教科や教員の判断に委ねた。FORMS を使った実施の推奨及び自己申告面接時の提出等は継続していく。教員相互の授業参観は各教科で実施したが、報告書の提出は1学期51件、2学期は75件にとどまった。授業観察後の報告書の提出が少なかったことについては、授業力向上に関する教員研修の目的等を改めて周知していく必要がある。
- ⑦ 東京都の学力向上研究校としての指定が終了したが、新規に同窓会の協力を得て寺子屋を継続させた。講師には本校卒業生を招き、生徒の基礎学力の定着に向けて取り組んだ。また、図書室の利用者数が昨年度4628名→8420名と大幅に上昇した。さらに利用者数を上昇させる工夫が必要である。
- ⑦ 朝学習を継続して実施した。各学年では朝学習の年間計画のもと工夫した取り組みがみられた。各種講習については今年度も進路部を中心に教科、担任団と連携を図り効果的に取り組んだ。特に学期中の講習は、昨年度と比べ15講座増え、参加生徒ものべ180名増加した。取組も良好で進路実績にもつながった。積極的に講習を設置する教員を中心に各種講習の充実を図っていく。また、「授業力向上」は大きなテーマであり、募集対策の柱でもあるので、今後も教科主任会議を開き、会議内容の共有化を図ることが必要である。
- ⑧ オンラインPTを中心に、デジタル技術を活用した生徒の学習サポートに取り組んだ。
- ⑨ GTEC はオフィシャルの受験日に全員受検することができた。2年生は生徒のスコアが大きく伸び、昨年度の2年に続き奨励賞を受賞した。
- ⑩ スクールカウンセラー、学年担任団を中心に、地域の諸機関とも連携しながら、学年内の特別な指導を要する生徒の情報共有を行ない、組織的な指導に取り組んだ。

2 進路指導

【中期的な目標】・進路指導部の主導による進路指導を確立し、学習指導と進路指導の連携により、進学実績の向上を図る。

- ・一般選抜での大学合格に目標を置き、多くの生徒がより高い目標を設定して受験に向かう環境を整える。

【今年度の目標】・進路指導部の主導による進路指導を展開し、学習指導と進路指導の連携により、進学実績の向上を図る。

- ・一般選抜での大学合格に目標を置き、多くの生徒がより高い目標を設定して受験に向かう環境を整える。

【今年度の方策】

- ① 総合的な探究の時間におけるキャリア教育を充実させ、1年次から具体的進路目標を持たせる。
- ② 模擬試験後の分析会やGTEC等の結果共有を通して生徒の学力状況や進路志望を共有し、生徒の希望進路実現を支援する。
- ③ 1年次の2学期末までに自学自習習慣を定着させる。2年3学期を3年ゼロ学期として位置付け、進路意識の早期高揚を図る。
- ④ 長期休業日中、土曜日や平日放課後等の各種講習を工夫・実施し、生徒の進路実現に繋げていく。
- ⑤ 一般選抜での大学合格に向けて、長期休業日中に「日東駒専突破講座」等、対象を絞り込んだ講座の開設を推進する。
- ⑥ 併せて、総合型・学校推薦型選抜を活用する生徒の増加に対する準備・対策を実施する。
- ⑦ 生徒の自学自習の定着に向けて、スタディサプリ等のデジタル技術を活用した教育を推進するとともに、図書館や自習室の利用拡大を図る。
- ⑧ スタディサプリを用いて教員間で生徒状況を把握する。
- ⑨ 各部活動単位での進路意識高揚に繋がる取組を意図的に進める

【数値目標とその結果】

- ① 四年制大学現役進学率 70% → 69.7%
- ② 国公立大学現役合格者数 3名 → 0名
- ③ 早慶上理現役合格者数 3名 → 1名
- ④ GMARCH現役合格者数 12名 → 14名
- ⑤ 成成明学独国武現役合格者数 10名 → 15名
- ⑥ 日東駒専現役合格者数 50名 → 81名
- ⑦ 大東亜帝国現役合格者数 50名 → 76名
- ⑧ 大学入学共通テスト試験現役受験者 100名 → 176名
- ⑨ 生徒学力分析会を実施 → 5回実施
- ⑩ スタディサプリ分析会を各学年で実施 → 各学年で実施(1・2学年各2回、3年1回)
- ⑪ T-1グランプリ等で、部活単位の成績発表の実施 → 実施

【今年度の成果と課題】

- ① 総合的な探究の時間におけるキャリア教育は外部人材の指導力を活用し、1年次から自分の進路目標について意識させた。今後も本校のキャリア教育の中身について教職員間での共通理解に努めるとともに実施方法について検討していく。
- ②③進路部が主導し、年間で10回の模擬試験終了後に結果分析会を実施した。分析会後には、各教科会で生徒の現状と課題を整理するとともに今後の対策を検討した。さらに、教科会での検討結果を集約した「模試分析まとめ」を学年ごとに作成し、生徒の学力状況や進路志望状況を教職員全体で共有し、生徒の希望進路実現を目指した。その結果、理科大1名、GMARCHの各合格者が14名、本校が一つの目標に掲げている日東駒専は昨年の57名から81名とさらに増え、数値目標を上回った。2年3学期ゼロ学期講習、日東駒専講習や入試直前講習については780名の生徒が受講し、進路意識高揚につなげた。
- ④⑤講習は年間を通して127講座を開講し、のべ1455名の生徒が参加した。昨年より増加し目標をほぼ達成。長期休業中の参加者数の増加が課題である。
- ⑥ 大学入学共通テストの受験者数は176名と昨年の89名から大幅に増加した。今後も一般入

試に挑戦する雰囲気づくりにつとめる。一方で、推薦型選抜を利用する生徒が増えることに対する準備・対策も必要である。四年制大学への進学者は69.7%と、目標をほぼ達成した。一教員向けには進路部主導の分析会を充実させたが、上級学校の情報や模試の結果の共有について、多くの教員に情報共有する機会や方法をより一層充実させていくことが必要である。

- ⑦ 全学年でスタディサプリやYouTubeの活用による授業動画や進路ガイダンス動画等の配信を行い、生徒の学習を支援した。オンライン学習サポート委員会や進路指導部、総務部を中心に学習支援や進路意識の高揚に向けて取り組んだ。スタディサプリは次年度以降も継続して使用していく。
- ⑧ スタディサプリの使用は定着してきた。学習サポート、教員と生徒の連絡ツールとして今後も継続していく。
- ⑨ 部活動単位での学習習慣については部活動でばらつきがあった。T1の結果発表において部活動単位での成績発表を行う等の工夫を行ったが更なる呼びかけや工夫が必要である。

3 生活指導

【中期的な目標】・本校スクール・ポリシーを踏まえた生活指導に取り組み、地域に信頼される人材を育成する。

・生命尊重を第一に、自殺予防やいじめ予防教育を一層充実する。

【今年度の目標】・規範意識の確実な定着と生徒が場面に応じた態度、行動を取れるよう、具体的な生活指導を推進する。

・新型コロナウイルス感染症対策の下で地域自治会、警察等との連携を推進する。

【今年度の方策】

- ① 教職員の共通理解の下で身だしなみ指導を徹底する。(特に、初タイ・リボン・スカートの着こなし方、化粧の禁止についての指導の徹底)
- ② 頭髪違反ゼロの定着。
- ③ 年間遅刻15回以上0の定着を図る
- ④ 毎朝の正門、駐輪場での挨拶、服装、頭髪、遅刻、駐輪指導を継続する。
- ⑤ 授業規律の確立に向け、私語の禁止や携帯のマナー指導等において全教員の統一した指導の定着を図る。
- ⑥ 挨拶の励行、校内の美化活動の推進、集会での校歌斉唱などを通して帰属意識の定着を図る。
- ⑦ 自転車のルール・マナー指導を重点的に実施し、自転車事故ゼロを目指す。
- ⑧ いじめ対策委員会と共に校内での、いじめ発生や希死念慮対応を協議し、対策にあたる。
- ⑨ 保護者との連携を強化する。
- ⑩ 地域防災訓練への参加を生活指導部主導で継続する。

【数値目標とその結果】

- ① 頭髪指導対象者数 0名 → 0名
- ② 年間遅刻15回以上 0名 → 0名
※年間遅刻10回以上 5名以下 → 2名
- ③ 年間遅刻者数クラス平均1名以下/1日 → 1年0.80名、2年1.63名、3年0.84名
- ④ 登校時の自転車事故及び登校時マナーに関する苦情 3件 → 6件
- ⑤ 学校評価学校満足度 生徒85% → 81.2% 保護者95% → 93.7%
- ⑥ 校内美化に対する学校評価の肯定的意見
生徒70% → 60.3%、保護者80% → 66.3%、教職員80% → 76.6%
- ⑦ いじめ調査アンケート 年3回実施 → 年3回実施
- ⑧ 高島平地域防災訓練に参加 → コロナのため地域防災訓練は中止

【今年度の成果と課題】

- ① 日常の生活指導及び生徒への積極的な声掛けの継続で学校全体の雰囲気向上し、安全安心な学習環境が構築された。今年度も新型コロナウイルス感染症対策に追われたが、養護教諭、生活指導部を中心とした全教職員で感染症対策を行った。生徒の PCR 検査情報をもとに、担任団を通じて得た情報を中部学校経営支援センターと連携を取り迅速に対応した結果、学校閉鎖を極力行わずに学校運営を行うことができた。
- ② 頭髪違反者は0人であった。
- ③ 遅刻指導では、生活指導部指導が2名であった。クラスの1日平均遅刻人数(人)は全体で1.09人であった。毎日の校門指導、朝学習指導の成果である。来年度は生活指導部指導「0」を目指したい。
- ④ 毎日の校門での挨拶身だしなみ指導及び駐輪場指導の継続によって学校運営の根幹をなす生活指導の充実につながったが、近隣からの自転車マナーに対する苦情は若干数あった。生徒への注意喚起を含めて継続指導が必要である。
- ⑤ 授業規律及び携帯電話使用に関するマナー指導においても生活指導部中心に全教員で指導にあたった結果、良好な学習環境が保たれた。
- ⑥ 挨拶の励行は今後も継続していく。校内美化は美化委員会を中心に清掃を実施した。生徒による自主的な清掃、主事さんの協力等もあり校内美化は保たれているが、学校評価アンケートでの肯定的意見の数字には課題が残った。校舎老朽化、トイレ臭の問題も評価結果に影響していると思われるが、校舎全面改築工事開始まで一層の充実を図っていく。帰属意識の定着に関しては全校集会、学年集会等を大切にして今後も意識の定着につとめたい。
- ⑦ 自転車のルール、マナー教育は警察と連携して継続した指導を行った。近隣からの苦情も若干あったが、大きな自転車による事故はなかった。
- ⑧ 年間3回の生活アンケートの実施により、小さな問題も見逃さず学年団を中心にスクールカウンセラーの協力を得ながら迅速な対応をした。年間を通して大きな問題は起こらなかった。
- ⑨ 保護者とは、今後も協力を得ながら連携していく。
- ⑩ 新型コロナウイルス感染症予防のため地域の防災訓練は実施されなかった。

4 健康指導

【中期的な目標】・生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成する。

【今年度の目標】・体力の向上とともに健康や感染症等予防について理解させ、健康的な生活を送れるようにする。

・メンタル面で生徒一人一人に十分な配慮ができる体制を構築する。

【今年度の方策】

- ① 文化・スポーツ活動を通じて健全な心身の育成を図り、人間性豊かな人材の育成に努める。また、体育授業や部活動を活用した生徒の体力向上を図る。
- ② 新型コロナウイルス等の感染症の感染予防及び拡大予防を徹底する。
- ③ 家庭、スクールカウンセラー及び関係機関との連携を強化し、生徒の健康について情報共有を密に行い、生徒理解及びいじめの未然防止及び自殺企図等の防止に役立てる。
- ④ スクールカウンセラーによる1年生全員面接を実施する。
- ⑤ 家庭と連携協力し、食育指導を充実し、歯の健康指導を推進する。
- ⑥ 健康教育、人権尊重教育、安全教育を推進するため、学校保健委員会並びに各関係機関と連携し、講演会等を計画的に実施する。

【数値目標とその結果】

- ① 朝食抜き ゼロ → 調査未実施
- ② 虫歯の未処置 20%以下 → 24%

- ③ スクールカウンセラーによるケース会議（研修） 年1回 → 1回実施
- ④ アレルギー対応に関わる教員研修の実施、→ 職員会議にて実施
食物アレルギー対策委員会の設置 → 設置済
- ⑤ 全校生徒対象でセーフティ教室の実施 → 実施（特殊詐欺、交通安全）
- ⑥ 部活動対象で熱中症予防講習年間2回実施 → 7月に2回実施

【今年度の成果と課題】

- ① 心身ともに健康で感性豊かな生徒の育成を図るとともに、清潔かつ快適な学習環境作りに向けて全校体制で取り組むように心がけた。また、健康や感染症等の予防についても理解を深め、日頃から健康的な生活を送れるようにすることを目標に保健だより・保健委員を通じて予防接種や手洗い、うがいの励行・教室の換気などの予防対策を啓発した。今後の課題としては、日頃から生徒自身が自己の体調管理や感染症等の予防を実践する力をより一層身に付けさせていくことである。
- ② 新型コロナウイルス感染症対策については、東京都からの通知に従い、保護者、学校経営支援センターとの連携をはかり迅速かつ丁寧に対応した。登校前自宅での検温、登校時サーモグラフィによる検温の継続による体調把握、昼食時の会話防止等、感染の確率が高い行動に対して担任団の巡回指導及び掲示物等により、感染症対策を徹底した。登校時の検温について、ロイノート等のツールの活用を推進していく。
- ③ スクールカウンセラーによる全員面接や、いじめアンケートを年3回実施し、生徒理解及びいじめの未然防止に役立てた。スクールカウンセラーによる全員面接は早期に実施できたが、今後も可能な限り入学後すぐの実施の検討が必要である。
- ④ 養護教諭を中心に、アレルギーに関わる生徒情報を共有し、教員対象研修を実施した。
- ⑤ 警察等と連携しセーフティ教室を実施し、安全指導を充実させた。
- ⑥ 体育祭で熱中症の生徒が出たことを受け、教員対象の防止研修会を開催するとともに部活動を中心に熱中症予防指導を徹底した。

5 部活動・特別活動

【中期的な目標】・「文武両道」を実践するため、部活動の強い学校への定着を図るとともに各部活動内での自律的な学習意欲及び規範意識の向上を図る。

【今年度の目標】・「文武両道」を実践するため、部活動の活性化とともに、各部活動内での自律的な学習意欲及び規範意識の向上を図る。

・オリンピック・パラリンピックのレガシーによる多様な体力向上方策を推進する。

【今年度の方策と数値目標及びその結果】

- ① 部活動への1年次全員加入を定着させ、高い加入率を維持するとともに、活動実績の向上を目指す。
- ② 「けじめと切換え」を重視し、家庭学習時間確保のため、最終下校時刻7時を厳守する。
- ③ 学校行事等の運営を通して生徒会活動を活性化させ、主体的取り組みを推進し、自発性や帰属意識を高める。
- ④ 外部指導員の活用推進のため、弾力的な予算の配分を検討する。
- ⑤ 環境整備による運動部活動の推進・改革を図り、スポーツ特別強化校としての取り組みをより一層推進する。

【数値目標とその結果】

- ① 活動加入率 95% → 91%
- ② 関東大会出場 4部 → 0部
- ③ 都大会ベスト16以上 10部 → 4部（女子バレーボール部、硬式野球部、軟式野球部、ソフトテニス部）

- ④ 各部活動・生徒会等による地域貢献活動 10 団体以上→ 3 団体ほか個人ボランティア実施
- ⑤ 生徒の行事満足度 90% → 90%

【今年度の成果と課題】

- ① 「文武両道」を実践するため、1 年生の部活動全員加入を奨励し、3 学年で92%の加入率を確保した。東京都ベスト16以上の成績を収めた部活動は女子バレーボール部、男子バスケットボール部、軟式野球部の3部活動で、昨年度と同数であった。
- ② 各部活動内での自律的な学習意欲及び規範意識の向上を図るために、「けじめと切換え」を重視させた。家庭学習時間を確保するために、部活動等最終下校時刻を厳守させたが、学習時間の確保までには至っていない。今後の課題である。
- ③ 大きな学校行事（体育祭、文化祭）は感染症対策のもと学年単位で実施した。球技大会は感染症対策のもとで今年度は実施した。
- ④ 9つの部活動で部活動指導員、また自立経営予算による外部指導員の活用を行い、部活動への支援を行った結果、部活動の充実と教員の働き方改革につながった。
- ⑤ 文武両道を目指す学校として、感染症対策を徹底しながら、運動部活動の推進・改革を図った。

6 広報活動

【中期的な目標】・広報活動の活性化を図り、本校を第一希望とする意欲の高い生徒を多く獲得する。
・社会貢献活動を推進し、地域活性の拠点校としての地位を定着させる。

【今年度の目標】・総務部を中心に、募集対策PTが連携して効果的な広報活動を展開し、入学者選抜において、本校を第一希望とする意欲の高い生徒を多く獲得する。
・本校の教育活動を広く都民に伝え、地域との連携を図る。

【今年度の方策と数値目標及びその結果】

- ① 中学校や学習塾への説明会に積極的に参加するとともに訪問地域を工夫し、本校の取り組みを全校体制で周知する。
- ② 学校見学会、部活動体験入部などの広報的行事について、コロナ対策の下で、より効果的な内容、日程に改善する。
- ③ ホームページのリニューアルを行うとともに更新を随時行い、本校の教育活動を広く都民にアピールする。
- ④ 生徒の活動をツイッターやHP等を用いて随時発信する。
- ⑤ 中学生向け「都立高校入試対策講座」をより充実させる。
- ⑥ 学校開放事業を積極的に行い、施設、教育力を地域に提供する。
- ⑦ 近隣の特別支援学校の行事等への参加を継続する。

【数値目標とその結果】

- ① 入学選抜応募倍率 推薦男子 3.5倍→ 3.61倍 女子 3.5倍→ 3.1倍
学力男子 1.4倍→ 1.48倍 女子 1.4倍→ 1.12倍
- ② ホームページ、ツイッター新着情報更新回数 400回 → 839回
- ③ 学習塾説明会参加 20校 → 8校
- ④ 中学生向け「都立高校入試対策講座」2回実施 → 2回実施
- ⑤ 学校見学会参加者数 2300名 → 1604名
- ⑥ 学校説明会参加者数 1000名 → 884名
- ⑦ 部活動体験参加者 500名 → 430名
- ⑧ 文化祭来校者数 2000名 → 未実施
- ⑨ 教員対象HP作成講習会 1回 → 1回実施

【今年度の成果と課題】

- ①②募集対策を第一の課題として取り組んできた。学校説明会、見学会は中学3年生とその保護者

のみとしたが、本校生徒と中学生、保護者が触れあう場面をより多く設定、中学校、塾への訪問、HPやツイッター、インスタグラムの活用等、多方面からできる限りの対策を行った結果、推薦、一般と倍率は大幅に向上した。校舎改築の影響等を考え、今年度の方策を検証し、様々な形で募集対策を一層充実していく必要がある。

- ③④総務部に加え募集対策PTが加わり、HPの更新並びにツイッターやインスタグラムを活用した広報活動を充実させた。次年度は、募集対策PTの在り方を考え、発信を継続していくことが必要。
- ⑤ 12月と1月に2回実施。237名が参加し受講生に好評であった。高校選択に迷っている中学生に対して最後の一押しをしていくためにも次年度も継続していく。
- ⑥ 新型コロナウイルス感染症対策のため未実施。
- ⑦ 新型コロナウイルス感染症対策のため高島特別支援学校との連携にとどまった。高島特別支援学校の生徒の作品を校舎内に展示した

7 組織体制

【中期的な目標】・企画調整会議中心の学校経営を推進し、分掌間及び分掌内の情報共有を深め、自律的な学校改革を促進する。

・働き方改革を推進するため、教職員のライフワークバランスを確立する。

【今年度の目標】・企画調整会議と分掌・学年との双方向性を高め、全教職員の情報共有や経営参画を進める。

・教職員のライフワークバランスの確立に向け、教職員の連携を深め、業務の平準化を推進する。

・「チーム高島」をスローガンに、学校、PTAや同窓会との連携を強化する。

【今年度の方策と数値目標及びその結果】

- ① 主幹教諭中心の学校経営を推進し、教員間の情報共有を深め、自律的な学校改革を促進する。
- ② 会議の効率化を図るとともに教職員の在校時間管理を行う。
- ③ 校内の情報セキュリティ環境の整備と共に、メールを活用した情報の共有化を推進する。
- ④ 各分掌、教科の組織目標スケジュール管理を適切に行い、半期ごとに検証し、修正、改善する。
- ⑤ 校内外の異常や危険個所、防犯・防災等に常に留意し、安心・安全な学習環境を整備する。
- ⑥ 個人情報適正管理及び体罰防止など、服務管理を厳正に行い、服務事故0を目指す。
- ⑦ 新型コロナウイルス等の感染症の感染予防及び拡大を防止するため、教職員一人ひとりが健康及び自己管理に努める。
- ⑧ 経営企画室による丁寧な窓口サービスや電話対応を展開する。
- ⑨ 経営企画室と緊密な連携を促進し、一体感ある学校経営を図る。
- ⑩ 校舎改築委員会を中心に改築工事を適切に実施する。
- ⑪ 50周年記念に向けて準備する。

【数値目標とその結果】

- ① 働き方改革の指示のもと、校内滞在時間の管理、休暇の取得促進等の発信を管理職から行った。管理職を含め教員の意識改革が徐々に浸透しており、業務管理の効率化の促進を今後も続けていく。教職員月当たりの平均勤務時間45時間以下を達成した。
- ② 服務事故防止研修各学期1回実施。
- ③ 一般需要費のセンター執行率60%→63.6%

【今年度の成果と課題】

- ① 企画調整会議で各分掌、学年の意見を吸い上げるとともに情報を共有し、諸課題に迅速に対応した。自律的な学校改革という点では主幹教諭、主任教諭を各委員会の実質的な委員長として運営した。企画調整会議は概ねスムーズに進行したが、報告事項に止まらず学校運営の根幹にかかわるテーマを題材とした議論をより一層深めていくことが今後の課題である。

- ② 職員会議の資料を、タイムスを活用してデータ送付するなど、会議の効率化は定着してきた。教職員の在校時間管理については、一定の教職員への業務の偏りがみられた。全教職員へのより一層の徹底が次年度の課題である。
- ③ 各分掌、学年の組織目標スケジュール管理を適切に行い、学校運営連絡会で学期ごとに検証し、修正、改善につなげた。
- ④ 校内の情報セキュリティ環境の整備については ICT リーダー主導のもと整備を行った。メールを活用した情報の共有化については、主に各分掌主任から全体に発信した。今後も継続していく。
- ⑥ 経営企画室では施設修繕を適切に行い、計画的に清掃や樹木選定を行うことで、安全・安心な環境整備に取り組むとともに、予算編成指針に基づき次年度予算を編成するなど、学校経営計画の実現を目指した。
- ⑥ 情報セキュリティの徹底を図った。個人情報の取り扱いについては今後も緊張感をもって教職員全体で取り組む必要がある。
- ⑦ 新型コロナウイルス感染症対策については教職員が日々の検温、手洗いうが等の励行を行い自己管理に努めた。
- ⑧ 窓口や電話対応では丁寧に対応し、苦情等にも速やかに内容を共有し対応した。TAIMS 端末を活用し、予定を情報共有することにより効率的に事務を執行し、休暇を取得しやすい働きやすい職場づくりに取り組んだ。
- ⑨ 経営企画室との連携については日々の打ち合わせ、口頭での連絡、メール等を使用して緊密に連携を図った。
- ⑩ 校舎改築委員会を立ち上げ、教育委員会と会議を複数回行い、学校の要望を踏まえた基本設計計画が完成した。
- ⑪ 50周年実行委員会を立ち上げ、式典の準備に取り組んだ。